戦前期外地の文化機関を中心とした絵葉書一覧　Ⅲ. 奉天（瀋陽）

岡村敬二編

写真絵葉書の撮影写真は、同じ整理番号の別ファイル「外地写真葉書リストⅢ 奉天」がある。画像はそちらの方が鮮明かと思う。なお（２）（３）は同じ写真であることを示す。

奉天 1「(奉天)満洲国 官公吏の養成機関、大同学院」。奉天の大同学院というのは必ずしも正確ではないが、設立の経緯はつぎの通り。満洲事変後の 11 月自治指導部が発足しその指導員養成のため自治訓練所が奉天に設けられた。校舎は奉天城内大西門内同澤女子中校、自治訓練所の開所式は昭和 7 年 1 月であった。3 月には満洲国が建国となり国都は長春（のち新京）と定められて訓練所も新都に移管となり、官制により自治指導部は解散、資政局訓練所となったが、7 月には資政局も解散し、大同学院官制により総務庁の管轄のもとに大同学院が創設された。したがってこの「奉天 大同学院」とある写真は、当初自治訓練所が設けられた奉天城内大西門の同澤女子中校、後の第二女子国民高等学校ではないかと思われる。

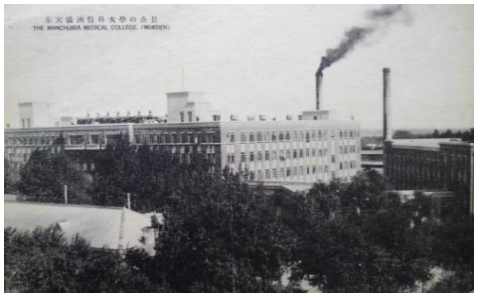
奉天 2「(元張学良邸たりし国立奉天図書館の壮観」。満洲事変後、危機に瀕した奉天宮殿の四庫全書などの資料を保全するという名目で大同元（1932）年張学良邸を接収し開館させた。この四庫全書などの保全を進言したのは満鉄奉天図書館の館長であった衞藤利夫である。独自の人脈を持っていた衞藤は関東軍に保全の佈告を出させ、第三課長であった森赳と相談しその保全の具体化を図った。結果的にはこの旧張学良邸を接収し、関東軍の肝煎で、他の資料・文物とあわせて満洲国立奉天図書館を開館することとなった（この次第は拙著『日満文化協会の歴史』に詳述した）。

奉天 3「(元張学良邸たりし国立奉天図書館の壮観」(2)。「奉天２」と同じ。城内の南方、満鉄公署の近くにある。

奉天 4「(元張学良邸たりし国立奉天図書館の壮観」(3)。康徳５（1938）年に中央図書館籌備処が新京に設けられ、この図書館は旧記整理処ともども籌備処の管理下に入った。

奉天 5「(奉天）忠霊塔境内より満鉄図書館書庫を望む」。満鉄奉天図書館は千代田公園の北角にあった。

奉天 6「奉天満洲医科大学の全景」。元南満医学堂で、大広場の南西にあった。戦後に奈良国立博物館の初代館長を務めた黒田源次はこの大学の教授で図書館長だった（拙著『戦前期外地活動図書館職員人名辞書』）。

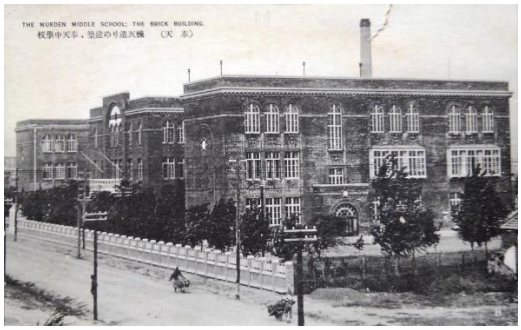


奉天 7「奉天満洲医科大学の全景」(2)。

奉天 8「(奉天) 完備せる満洲医科大学附属病院」。昭和 4 年に大連図書館は特別予算を得て多くの古典漢籍を購入したが、そのうちの医学・本草関係の貴重古籍は満洲医学堂のちの満洲医科大学に移管された。

奉天 9「(奉天) 東三省の最高学府、中華民国東北大学の偉観」。1923 年の創立、張学良が学長を兼任した。

奉天 10「(奉天) 東三省の最高学府、中華民国東北大学の偉観」(2)。満洲事変以降、散逸の危機にあったこの大学の蔵書も満洲国立奉天図書館が接収・整理して保蔵した(拙著『遺された蔵書』)。



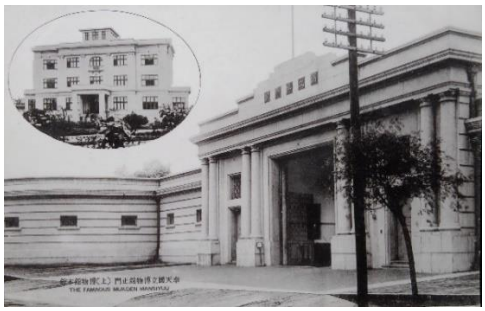
奉天 11「(奉天）煉瓦造りの建築、奉天中学校」。在校生・卒業生に衞藤利夫の子の瀋吉、「北帰行」の作者で満洲国立高等農業学校校長宇田一の子の博らがいる。千代田公園の東、千代田通り沿いにあった。

奉天 12「(奉天）完備せる奉天高等女学校」。満洲医科大学と、通りを隔ててその東にあった。奉天朝日高等女学校が設立されることとなったことから奉天浪速高等女学校に改称された。

奉天 13「(奉天）新装なれる満洲教育専門学校」。満鉄経営の教員養成師範学校であった。

奉天 14「(奉天）新装なれる満洲教育専門学校」(2)。この専門学校は実験校の附属小学校を持っていた。

奉天 15「(奉天) 緑陰に囲まれたる尋常高等小学校」。駅近く春日町にあり、のち奉天春日尋常高等小学校。



奉天 16「奉天国立博物館正門、(上) 博物館本館」。日満文化協会の助力で康徳２（1935）年 6 月に開館。

奉天 17「国立中央博物館奉天分館」。康徳 6（1939）年満洲国立中央博物館の開設により分館となった。

奉天 18「奉天瀋陽館　(左) 全景、(右) 玄関ホール」。悦来桟ホテルが焼け、洋風の瀋陽旅館（分館か）が建設された模様、康徳９年の地図には「瀋陽寮」とある。その背後に満洲ホテルがあり、浪速通を隔て大星ホテルが建っていた。

奉天 19「（奉天）清蔭綾なす浄域に見る孔子廟」。孔子を祀る霊廟で文廟ともいわれる。

奉天 20「奉天・鉄路総局。奉天鉄路総局は満洲国鉄の委任経営機関で、満洲がこれを経営し鉄道の他に港湾、水路、乗合自動車等の附帯事業をも兼営している。現在奉天、吉林、ハルピン、チチハルの四鉄路局に分掌し奉天鉄路総局がこれを総覧してゐる。写真は奉天鉄路局の偉容でその近代建築美に輝やく壮麗な建物は奉天市街の一異彩であらう」

奉天 21「奉天満鉄鉄路総局」。西塔と通りを隔てて建っていた。

奉天 22「奉天市公署　奉天は、首都の新京とは別の意味で以前から南満第一の大都会として経済的に重大な位置を占めてゐる。今や隆々たる満洲国の発展と相俟って奉天の繁栄振りも実に目覚ましいものがある。写真は奉天の市政諸般の中枢機関である市公署の堂々たる偉容で、見るからに明朗な市政が生まれそうな近代建築美にかがやく外観ではないか」

奉天 23「(奉天) 市政の中枢たる奉天市公署の偉容」。日本領事館の北、潘陽行轅 の横に位置していた。

奉天 24「(奉天) 満洲の野に威重を示す奉天警察署と正金銀行」。大広場のヤマトホテル車寄せから撮影したもの。

奉天 25「(奉天) 千代田通に厳然たる中央銀行奉天分店」。千代田公園、忠霊塔の斜め向かいにある。分行は吉林・斉々哈爾・哈爾浜にもあった。

奉天 26「奉天北方十軒房 菱藤閣 (奉天)」。西本願寺の経営になる 500 人収容のアパート、

奉天 27「奉天造幣局　(二)」。昭和 7 年 3 月の満洲国建国にともない満洲中央銀行が創設されたが、奉天造幣廠はその傘下にあった。従業員 370 人、うち日本人は約 100 人、その管理運営権は日本にあった（『造幣局のあゆみ 改訂版』2010 年デジタル版）。

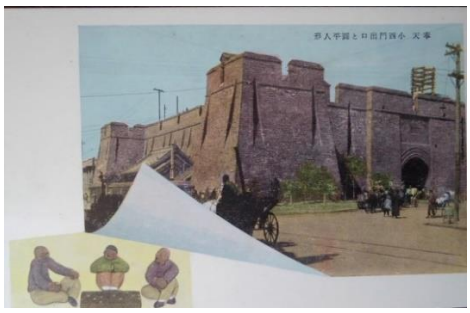
奉天 28「奉天郵便局」。京都府技師で京都市武徳殿や京都ハリストス正教会聖堂を設計した松室重光の設計。満洲に渡ったのち、関東都督府博物館（旅順博物館）や大連市役所を設計、また新京郵便局に続いてこの奉天中央郵便局も設計した。千代田通と春日町の角にあった。

奉天 29「奉天総領事館」。浪速通りの東端にある。明治 38 年に設置、満洲国の治外法権撤廃により昭和 14 年 2 月に閉鎖となった。

奉天 30「奉天市同善堂 満洲唯一の慈善事業である。五千余坪の地内には孤児・養老・乞食・娼婦・捨児などを収容す。特に上図（救生門の丸窓）は貧人の捨児受付所にて是を養育する事は世界に類なき事業で必ず一度は観覧する要あり」。

奉天 31「奉天城壁 在来の満洲の都會はすべて頑丈な城壁で圍まれてあった。奉天城内も昔の面影を城壁に保つて市街の一區域を占めてゐる。城内は大体円形をなし内外の二城からなってゐる。その内城は方形の城壁でかこまれ、周囲一里半、城壁の高さ二十尺、外城に出る大小八門を有してゐる。清朝の首都であっただけに城壁は實に堂々たるものだ」。

奉天 32「(奉天) 高さ一丈八尺奉天城々壁 岌平として聳ゆる奉天城々壁」。



奉天 33「奉天 小西門出口と圓平埠人形」。圓平人形とは淡路島出身で満洲に渡り圓平陶苑を開いた初代小倉圓 平の制作した満洲の風俗人形。一時期、満洲郷土玩具のコレクターで研究者でもあった須知善一の絵の 制作も担当したようである（市道和豊『満州の曠野に非ず』室町書房）。

奉天 34「高さ一丈八尺牢固として聳ゆる奉天城々壁の偉観」。

奉天 35「奉天小西關邊門人車の往来織るが如し」。小西關邊門は奉天城内を東西に走る北側の通りの西門。門のアーチには「陪都重鎮」とある。清王朝の故地盛京（瀋陽・奉天）が北京の陪都ということである。

奉天 36「（奉天）奉天府の今昔を語る東轅門」。張氏帥府北方の奉天省公署の東門。

奉天 37「清朝時代の建造になる奉天城内東西門」

奉天 38「奉天城内の雑踏 奉天城内四平街は雑然たる舊市街で紅紫とりどりの看板は旅行者の驚異の的だ。」

奉天 39「(奉天) 高楼巍然、車馬絡繹たる四平街 (支那街)」。四平街は小西門・小東門間の繁華な通りで、現在の中街にあたる。

奉天 40 （奉天 城内の賑わいである）

奉天 41「(奉天) 城内小西門より大西門に到る電車通」。城内西の南北の通り。北端に大清宮がある。

-

奉天 42「(奉天)城内」。通りの右に「永和堂書荘」とみえる。

奉天 43「(奉天)城内に於いて最も繁華なる四平街の盛観」。

奉天 44(奉天)奉天城内美麗なる満鉄公所全景」。満鉄公所は明治 42 年 5 月に設置された満鉄の情報機関。元張学良邸の国立奉天図書館の西にあった。のちには哈爾浜・吉林・斉斉哈爾などにも置かれた。

奉天 45（奉天）清廷の盛時を偲ぶ城内宮殿鳳凰楼」。政治を行う崇政殿の後方にそびえる。

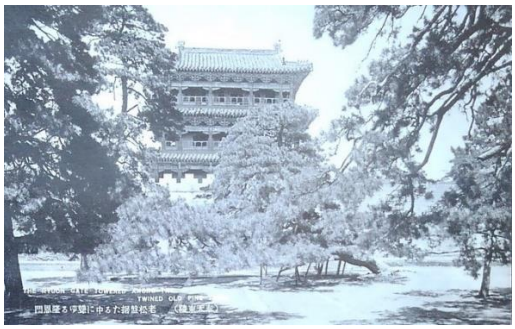
奉天 46「峻極殿」。（奉天北稜か？？？）

奉天 47（奉天北稜）宝輪を戴く角楼と美建築」。北陵は清王朝初代の太宗ホンタイジと夫人を祀る陵墓。

奉天 48（奉天名所）北稜隆恩殿前庭（拝殿とも称す）」。北稜の元来の名称は昭陵である。

奉天 49「奉天北稜隆恩殿」

奉天 50「清朝ノ遺跡奉天ノ北稜前庭ノ一部」



奉天 51「(奉天東陵) 老松盤踞たる中に聳ゆる隆恩門」。正式には東陵は福陵である、後金初代皇帝ヌルハチ陵墓。「老松盤踞」とされる松は、万年松ともいわれる。

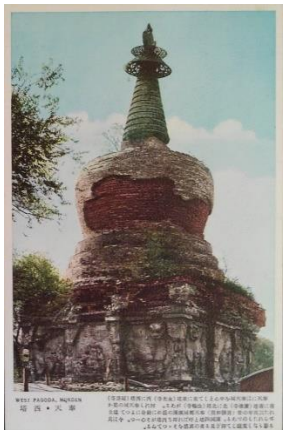
奉天 52「奉天郊外東陵 壮麗なる隆恩殿外廊四角楼及隆恩紅門」

奉天 53「奉天東陵石橋ヨリ碑楼ヲ望ム」。東陵は松林生い茂る緑豊かな陵墓である。

奉天 54「(奉天東陵) 緑樹に囲まれし石畳、外廊」。

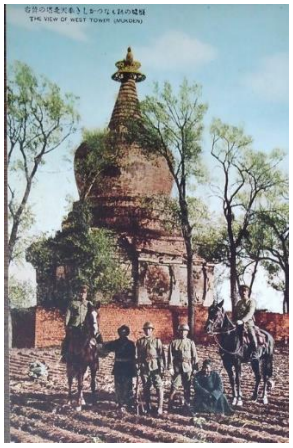
奉天 55「奉天太清宮古塔」。太清宮は道教の寺院。清朝康熙年間の建造、城内の北西角にある。

奉天 56「(奉天) 廃墟の跡もかなしき西塔」。奉天には東西南北に四塔が配置されてある。崇徳８（1643)年清の皇太極（ホンタイジ）の勅建で、順治２（1645）年工、喇嘛教様式とされる（『盛京勝景』瀋陽出版社 2008 年)。西塔は延寿寺で、扁額には「金粟祥光」あったという。西塔の界隈は朝鮮族の居住区で、瀋陽駅近くの太原北街の突き当たり。この東西南北に四塔については科研費報告書『戦前期中国東北部刊行日本語資料の書誌的研究』(平成 21 年）に、「遼寧省図書館訪書記（2008 年 8 月）奉天四塔巡覧」として詳しく報告した。

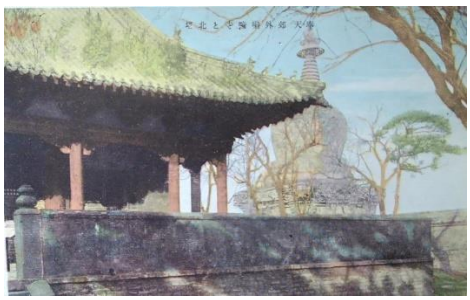


奉天 57「奉天・西塔 奉天には奉天城を中心として、東に東塔（永光寺）西に西塔（延寿寺）南に 南塔（廣慈寺）北に北塔（法輪寺）がある、何れも奉天城の築かれた三百年の昔（清朝初期）奉天都城鎮護の爲に勅命によって建立せられたものである、護国四塔と呼ばれ即ち西塔がその一つ。今は見る影もなく荒廃して仰ぎ見る者の哀感をそそっている」。奉天 56 のカラー版である。

奉天 58「奉天四塔」。四塔のうちの西塔である。



奉天 59「廃墟の跡もなつかしき奉天北塔の威容」。北塔は法輪寺。2008 年 8 月に出向いた折には、四塔のうちでこの北塔が現在でも仏教的な活動を行っているように見えた。



奉天 60「奉天郊外喇嘛寺と北塔」。この喇嘛寺というのは法輪寺のことである。

奉天 61「(奉天) 古色蒼然たる皇寺前の碑門」。皇寺は喇嘛寺、清朝歴代皇帝の瀋陽来訪の折には必ず参拝した。廟会がたつことでも有名である。

奉天 62「奉天・千代田公園。千代田公園は満鉄の経営になり、其の面積五万九千二百坪 頗る大規模なもので緑の樹木に蔽はれた形勝の地である。園内には花壇、泉水、芝生、グラウンドなど大いに新味を加へた大公園で奉天市民の尊い憩安保健の清適地である。前方に見える塔はかの奉天大会戦に戦死せるわが将兵無量二万千有余の英霊眠る忠霊塔である」

奉天 63「奉天千代田公園の清趣」

奉天 64「（奉天）睡蓮咲く千代田公園」

奉天 65「（奉天）睡蓮咲く千代田公園」、64 と同じ写真

奉天 66「（奉天）泉石の配置に風趣を添ふる千代田公園 」

奉天 67「奉天公園の一部」。奉天公園は奉天市公署の西、黄寺の南にあり、近くに敷島小学校もあった。

奉天 68「（奉天）王道復起して再興されたる孔子廟の清観」。城内東南隅にある。満洲国においては儒教が重要視されたことから、この孔子廟も再興された。

奉天 69「奉天駅前浪速通りの偉観」。浪速通りは奉天駅から左手（東）の大広場につながる大通りである。

奉天 70「（奉天）商況最も活発なる浪速通」。69 と同じ奉天駅からの景観。左が瀋陽寮、右が旅行案内所か。

奉天 71「（奉天）商況最も活発なる浪速通」（2）。70 と同じ奉天駅からの浪速通り。

奉天 72「(奉天) 商況殷盛を極むる浪速通り」。

奉天 73「(奉天) 街衢井然たる東浪速通」。

奉天 74「(奉天) 市区整然たる千代田通」。千代田通りは奉天駅正面から南東に伸びる大通り。大広場からの富士通りと交差する角に中央銀行がある。

奉天 75「(奉天名所) 奉天平安広場」。奉天駅から右手に伸びる平安通りにある。

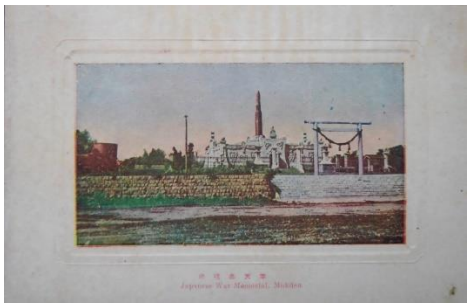
奉天 76「奉天新市街全景内」

奉天 77「(奉天) 奉天市街の大観 其 2 奉天駅よりの眺望」

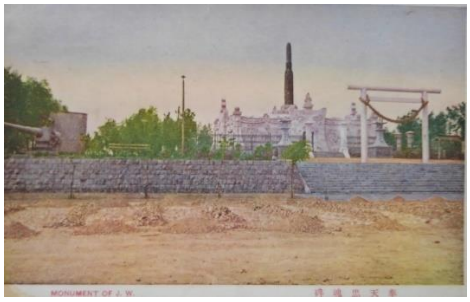
奉天 78「日露戦役記念碑附近より浪速通り及び奉天駅を望む」。正面はヤマトホテル、右が浪速通り。

奉天 79「(奉天) 新市街の中心大広場より浪速通を望む (左方巍然たる建築はヤマトホテル」。

奉天 80「(奉天）商業殷盛を極むる春日町」。春日町は奉天駅と大広場の中間あたりを横切る繁華な通り。



奉天 81「奉天忠魂碑」。日露戦争の死者を祀ったもの。千代田通公園に隣接して設営された。



奉天 82「奉天忠魂碑碑」。鳥居と神苑が見える。

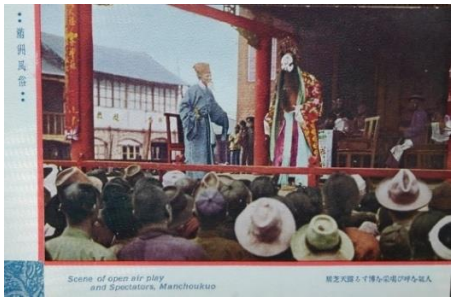
奉天 83「満洲事変勃発の激戦地奉天北營戦跡記念碑（上）柳条溝鉄道爆破地点」。爆破地点は柳条湖である。

奉天 84 「事変勃発の導火線と成りし鉄道爆破地点」。今はこの地に九・一八歴史博物館が建つ。

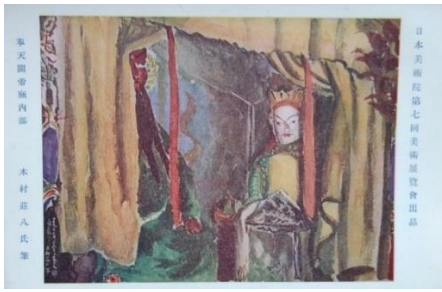
奉天 85「事変勃発の激戦地奉天北大營戦跡記念碑」

奉天 86「奉天の商盛區春日通りの賑ひ」。浪速通りとの交差点に中央郵便局がありまた電報局もあった。

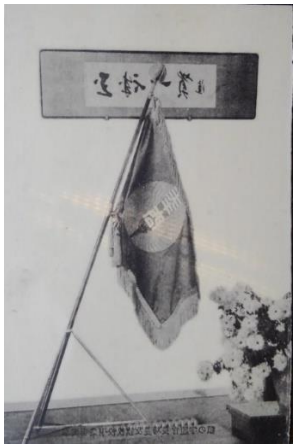
奉天 87「奉天満蒙毛織百貨店の偉観」。この百貨店は奉天では初めてのもので、春日町の奉天中央郵便局の前にあった。



奉天 88「人気を呼び喝采を博する露天芝居 満洲風俗」。



奉天 89「木村荘八 奉天関帝廟内部　日本美術院第七回美術展覧会出品」。木村は明治 26 年生まれの洋画家で『東京の風俗』などの随筆もたくさん残した。昭和 25 年 11 月 18 日死去。



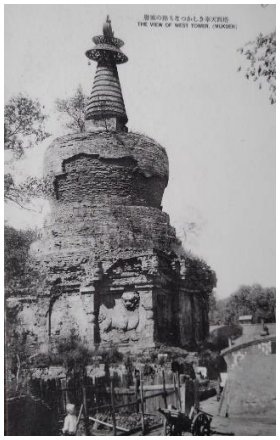
奉天 90「奉天商業学校校旗及菱刈長官題字の額」。

奉天 91「(奉天) 市区整然たる新市街の全容」

南満の要枢大奉天三十二景 MUKDEN OF VIEWS（奉天Nの番号を振った、あるのは 30 枚）

奉天 N1「奉天満洲医科大学の全景」。奉天 6 と同じ

奉天 N2「奉天満鉄医大の威容」



奉天 N3「廃墟の跡もなつかしき奉天西塔」

奉天 N4「三万五千余の英霊静かに眠る奉天忠霊塔」千代田公園の横に建っている。

奉天 N5「翠松赤欄に映ゆる奉天北陵隆恩門前庭」

奉天 N6「奉天満鉄鉄道総局」。総局は西塔の通りを隔てて南の春日町にあった。

奉天 N7「善美を極むる奉天北陵隆恩殿玉座」

奉天 N8「奉天春日公園に立つ日満親善を表す満鉄教育記念塔」。春日公園は鉄道総局横の公園である。

奉天 N9「奉天城内四平街有名なる吉順絲房附近の賑ひ」。

奉天 N10「古代建築の粋を集めし奉天北陵正門」

奉天 N11「東陵（隆思門）天桂福陵と称し太祖高皇帝を葬らる」

奉天 N12「殷盛を極むる奉天東浪速通り」

奉天 N13「大奉天駅の威容」。明治 33 年に竣工の辰野金吾のいわゆる辰野式の建築。

奉天 N14「奉天の盛商區春日通りの賑ひ」

奉天 N15「奉天平安広場」。正面はガスビル、その左手をいけば繁華な春日町に到る。

奉天 N16「大奉天の守護神奉天神社」神社は大正 4 年に大広場の裏側、春日小学校の東に創設された。祭神は天照大神と明治天皇であった。

奉天 N17「奉天千代田通りの賑ひ」。右の建物は満洲中央銀行、遠くに奉天駅を望む。

奉天 N18「東洋第一の称ある奉天競馬場」

奉天 N19「行人の眼を驚かす奉天北陵隆恩門前庭の石獸」

奉天 N20「平安広場より青葉通りを望む」

奉天 N21「奉天千代田公園入口」。

奉天 N22「奉天中央広場 明治三十七八年戦役記念碑を中心に銀行、会社、ホテル等大奉天の枢地」。大広場のヤマトホテル、浪速通り、横浜正金銀行と日露戦役記念碑。

奉天 N23「奉天城内四平街 大商店の集ふ城内で最も繁華な四平街」

奉天 N24「奉天同善堂病院」。同善堂は清代からあった救護福祉施設、大西門から少し西に位置していた。天然痘の予防や乳幼児の保護、教育設備などを備えた施設で病院も敷設していたことがわかる。同善堂から小西国民学校をはさんでその東には日本赤十字病院があり、小西国民学校や赤十字病院がこの同善堂の管理下にあったかもしれず、このあたりは不明である。

奉天 N25「奉天北陵の四隅に聳ゆる壮麗なる角楼」

奉天 N26「高さ一丈六尺牢固として聳ゆる奉天城々壁の偉観」

奉天 N27「奉天千代田公園の清趣」

奉天 N28「快速車あじあの雄姿」

奉天 N29「奉天北陵全景（其一）」

奉天 N30「奉天小西門附近の雑踏」。奉天 35 のモノクロ写真。